

英語との出会い

信沢 明

何故英語に親しむようになったかと聞かれても、返事に困る。私の場合は、なんとなくそうなったという他はない。つまり思い出すような動機が見出せない。中学1年で初めて英語という異質の言語に接したときに、何の抵抗もなくその世界に入れた。既にそのときに、ある種の免疫、または培地ができていたのであろうし、その後もスムーズにその世界に溶け込めた。

中学入学前

これについては、二人の叔父兄弟とのかかわりが大きい。先ず、私の幼少のときから面倒をみてもらった年下の叔父である。小学校時代には毎年夏休みには、郷里高崎の叔父のいる祖父母の家で過ごしたときを忘れられない。当時叔父は、高崎中学生で東京外語受験を目指して英語を勉強していた。時々勉強部屋を覗くと、欧文社発行の赤尾好夫や原仙作による受験英語参考書があった。1938年（昭和13年）に東京外語のスペイン語科に入学すると、東京の我が家に下宿した。そうすると英語に代わってスペイン語の辞書と参考書が本立てに並んだ。こうして語学の世界が徐々に身近のものになってきた。当時覚えたものは身近にある器具の商品名である。カメラの **Kodak**、ミシンの **Singer** および、およびドイツ製双眼鏡の **Carl Zeiss Ikon** であった。尚、後年（昭和15年）に伯父が、アルゼンチン海軍練習船の乗員を東京で案内したとき、彼らとのやりとりの会話を聞いて家族一同が大笑いしたのをかすかに覚えて

いる。

1937年（昭和12年）のある日に我が家を訪れた年上の叔父は、「今度、米国のダグラス航空会社（ミズリー州、セントルイス）へ出張を命じられ米国へ渡航することになった」と言い、母始め私の兄弟は驚いた。当時としては米国への渡航は非常にめずらしかったのである。昭和の初期に仙台高工を卒業した叔父は中島飛行機（現、富士重工業）に入社し、専ら陸軍向けの戦闘機（後に名機の「隼」を生み出す）や爆撃機（たとえば、「呑竜」）の製造部門を担当した。子供心に、米国人と話ができるかといぶかったが、後で私が山梨高工に入学したときに叔父からもらった2冊の教科書を見て、やっと分かった。その英文のテキストブックは、**Strength of Material, Boyd, McGRAW-HILL** および **TEXT-BOOKS of SCIENCE, ELEMENTS of MACHINE DESIGN, Unwin, Part 1., LONGMANS, GREEN AND CO. LTD.**であった。当時は日本語での教科書が無く、全て米国または英国発行のものを使用し、外国人教授から授業を受けたのである。余談であるが、1990年にワシントン州シャトルにあるボーイング社の博物館を訪れ、1920年代を再現した設計室の机の本立てに上述のテキストブックがあるのを偶然に見出し、思いを新たにした。

中学入学後

1939年（昭和14年）に中学に入学した。英語の教科書は正副読本の2冊と英文法の1冊があり、それぞれ週に一時間ずつ講義があった。1学年は約250名で5クラスに分かれ、幸いにも第1学年の担任は、正読本担当の英語教師であり、第2学年の担任も英文法担当の英語教師であった。第1学年の担任教師は教え方が非常に丁寧で、我々生徒にこ

と細かく説明してくれ、特になぜか私には時々褒めてくれた（内容は全く思い出せないが）ので、毎回の授業が楽しみであった。第1学年で、英語の基礎が学べた。

第2学年での思い出は、夏の富士五湖の1つの山中湖への夏季林間学校である。そのスケジュールの合間の自由時間に、個人的に担任教師から英語への取り組みの仕方では話された中で記憶にあるのは、「単語が分からないといって直ぐ辞書を引かないで、前後から判断して予想してみる。そうしてから辞書を開き、予想と一致していたら本当に嬉しいものだ」と言われ、英語の勉強の楽しさを教えられた。もともと、この言葉の真の意味が分かったのは後年になってからだが。さらに第3学年には、金田一晴彦先生が担任となり、日本語から見た英語の世界が教えられた。教練を初めとする戦時下のスパルタ教育の中で、英語の授業は、あたかも砂漠の中のオアシスのようであった。こうして英語の勉学にとり最良の環境に恵まれた時を過ごした。

1941年（第3学年のとき）に日本は太平洋戦争に突入し、英語は敵性語とみなされ旧制高校または高工などの上級学校の入試項目から外されたが、英語の授業は依然続けられた。

1944年に高工に入学すると、ドイツ語が、同盟国の言語として許され教科として取入れられたが、途中の学徒動員を挟んで不十分な学習に終わった。

戦後から現在まで

戦後になり、英語が「解放」され自由に学べるようになり、途中紆余曲折を経て、定年後に生涯の仕事としての翻訳に携わるようになった。その原点は、やはり中学入学前後の環境で生まれたと思う。